

令和元年度第3回南薩保健医療圏地域医療構想調整会議の開催結果について

日 時：令和2年3月5日（木） 午後6時30分から午後8時30分

場 所：南九州市知覧文化会館 大会議室

出席者：17名（代理出席1名を含む）、2名欠席

傍聴者：7名

内 容

1 開会

2 報告及び協議

(1) 関係機関と連携した地域医療構想の周知について

～全国健康保険協会鹿児島支部からの提案～

(2) 県外来医療計画の策定について

(3) 重点支援区域について

(4) 具体的対応方針の再検証等について

(5) 新薩南病院に係る病床数の考え方について

3 その他

4 協議結果

(1) 協議事項

(関係機関と連携した地域医療構想の周知について)

- ・地域医療構想の住民への認知度向上に向け、住民オブザーバーの設置の必要性について今後も検討していく。

(具体的対応方針の再検証について)

- ・南さつま市立坊津病院の2025年に向けた具体的対応方針については異議なく合意
【合意内容】

令和2年2月より回復期病床26床、療養病床18床で運用を開始、令和2年4月より回復期病床26床、介護医療院18床で運用開始予定。回復期病床は将来的に地域包括ケア病床へ転換予定。診療科や2025年における役割は現行と変更無し

- ・枕崎市立病院の2025年に向けた具体的な対応方針については異議なく合意

【合意内容】

現在は急性期20床、慢性期35床で運用中。今後は急性期13床、回復期（地域包括ケア病床）13床、慢性期29床への転換予定。診療科や2025年における役割については民間医療機関では担えない分野の医療（感染症、周産期、小児等）について検討する。

(新薩南病院に係る病床数の考え方について)

- ・新薩南病院に係る病床数の考え方については異議なく合意

【合意内容】

現在は許可病床より35床少ない140床（急性期病床116床、結核病床20床、感染症病床4床）で運用しているが、令和4年の移転後は地域の要望や実情に応じ「産婦人科の新設」及び「小児科・整形外科の再開」を目指している。

新薩南病院においては許可病床から結核病床10床を減床した165床（急性期151床、結核病床10床、感染症病床4床）で運用予定。

(2) 意見

- ・地域医療構想は住民のための制度であり、住民の認知度向上に向けた取組が必要。調整会議に地域住民のオブザーバー制度を設けることを検討してはどうか。
- ・高齢者や障がい者等の交通弱者に対して「利用しやすい公共交通」を提供するのが行政施策としての大きな柱ではある。一方、人口減少に伴い利用者が減っていることやサービスを提供する側の人材確保等の課題もある。今後も公共交通とデマンド型交通等、住民が利用しやすいサービス形態について検討を続ける。
- ・公立・公的医療機関の再検証については、国の示す一律の方針に従うのではなく、自治体が地域の実情を基に自治体としてどうするべきかを考えて方向性を出さない

と上手くいかない。また一刻一刻変化する状況に合わせて計画も変えていかないといけない。

- ・民間医療機関は医療を通じて地域の中で存在感を示していく。それでも足りない部分は自治体が税金を投入してでもやっていかないと市民の生活の質を保つことは出来ない。
- ・地域医療構想は「再編・統合」という言葉により誤解を与えた部分がある。今後人口も減少し、そして医療従事者の確保も難しくなってくる。そういった事も勘案して適正な病床数や医療機能を考える、「ダウンサイジング」「機能分化」に頭を切り換えていかなければならない。
- ・今後は今まで以上に「地域枠の医師」が地域の基幹病院を中心に地域に来てくれる。公立病院は「(地域枠の医師に) 選ばれる病院」なる事を考えなければならない。その中で民間と公的医療機関の役割ももう少し考えていくべき。